

ブルグミュラー18の練習曲Op.109の研究

益子 州出男[§]

はじめに

ピアノ学習者の流れは、私がピアノをレッスンし始めた半世紀前から今でも、バイエル・メトードローズなどから始まり、ハノン・ピアノのテクニック・バーナム等で指の訓練をしながら、ツェルニーの練習曲の併用曲として、ブルグミュラー 25の練習曲→ソナチネ→ソナタと進んで行く事が多い。私自身もブルグミュラー 18の練習曲の存在自体は知っていたがレッスンすることなく上記の流れで進んで行った一人である。

音大を卒業した数年後にあるテレビ番組で流れた曲を聴いて「きれいな曲だな。」と思って心に残っていた曲が、後にブルグミュラー 18の練習曲の一曲である事を知った。それからブルグミュラー 18の練習曲の勉強をし始めると、ブルグミュラー 25の練習曲に比べ、曲の構成もしっかりしていて、テクニックを身に付けながら、音楽表現の勉強にも役立つ事が分かった。

「ピアノ学習者が必ず弾く。」と言っても良いブルグミュラー 25の練習曲と比べると弾かれる頻度がかなり低い事は残念である。

そこで、ブルグミュラー 18の練習曲で効率的に勉強出来る点を、ツェルニー 30番の練習曲やブルグミュラー 25の練習曲と比較しながら検証していく。

[§]白鷗大学教育学部

ブルクミュラーについて

ヨハン・フリードリヒ・フランク・ブルクミュラー ドイツの作曲家(1806年～1874年)

ブルクミュラー家は音楽一家で父親のヨハン・アウグストはオルガニスト、指揮者として名をはせ、有名なデュッセルドルフの音楽協会を創立。この市の音楽監督を務めた。また低ライン音楽祭の創立者としても知られている。弟のノルベルトも作曲家。

フリードリヒは1829年カッセルでシュポーアに作曲を師事。1830年に自作のピアノ協奏曲でデビュー。1832年パリに移住。主にピアノ教育に従事、数多くの教育作品やピアノ小品を作曲。フロートやデルドヴェと共にバレエ音楽を二つ作曲している。

フリードリヒの音楽は小じんまりしているがメロディーが魅惑的である。

自身のピアノ奏法はベルティーニの流儀を迫ったパリ式だったといわれています。しかし、ドイツに生まれ、パリを活動の場にした彼にとっては、フランス式とかドイツ式とか片寄った考えにとらわれることはないと思われる。

ブルクミュラーの練習曲について

ブルクミュラーの練習曲は同じ「練習曲」となっているチェルニーとは違い、テクニックを学びながら、音楽を歌わせる要素を求めている。これは楽譜に指示されている強弱やテンポ表示以外の発想用語の多さでわかる。

ツェルニー 30番に示している発想用語は、練習番号表示として 5番、17番 *giocoso* (楽しげに)、6番、13番 *leggiero* (軽快に)、12番 *animato* (活気をもって)、16番 *energico* (精力的な)、18番 *risoluto* (決然と)、19番 *scherzando* (たわむれるように)、20番 *piacevole* (愛らしく)、23番、27番

comodo (気楽に)、25番galop (ギャロップ風に) となっているが、曲の中ではleggieroとdolce (柔らかに) が数回出てくる他は、21番にdelicatamento (優美に、繊細に)、voloce (急速に)、26番にcon fuoco (火のように) が書かれているだけである。

この様に、ツェルニーの練習曲はテクニックを重視で、曲の表題にはいくつか発想記号が書かれているが、曲の中で音楽的な変化を余り求めている。ない。

それに対しブルグミュラー 25の練習曲では、以下の発想記号を多く用い変化を求めている。leggiero、dolce、risoluto、scherzando、animatoの他、mormorando (呟くように)、catabile (歌うように)、deciso (はっきりと)、misterioso (神秘的に)、lusingando (親しげに)、espressivo (表情豊かに)、vivo (活発に)、grazioso (優美に)、agitato (せきこんで)、dolente (悲しげに)、delicato (優しい)、religioso (敬けんに)、marziale (行進曲風に)、armonioso (愛らしい) と多く指示されている。

又、ブルグミュラー 18の練習曲では、energico、con fuocoの他、tranquillo (静かに)、leggierissimo (もっとも軽快に)、dolcissimo (もっとも柔和に)、possibil (できるだけ)、canto (歌って)、pesante (重々しく)、rapitamente (急いで)、maestoso (威厳をもって) が新しく出てきている上に～issimoと、より深い音楽表現を要求している。

以上の様に、ブルグミュラーの練習曲は、「ただ音が弾ける。」だけではなく、一つのフレーズをどう表して弾けば良いかを弾き手に考えさせている。

ブルグミュラーの練習曲の欠点として、左手に重心を置いている練習曲が極めて少ない。ツェルニーの練習曲と違って一番から順に全て進めることはなく、生徒の状態によって飛び飛びに進めて良いと思われるが、ブルグミュラー 25の練習曲の15番バラードやブルグミュラー 18の練習曲の4番ボヘミアンは必ず練習すべき曲である。

ブルクミュラ25の練習曲との比較

ブルクミュラー 25の練習曲

初級者用でバイエル後半から併用されることが多く、ピアノ学習者の必須の練習曲である。

小さい手でも弾ける様にオクターブの和音がない。
(しかし、七度音程の中で三つの音を弾く和音がある。)

25曲中一ページの曲が14曲と短い。

一曲一曲に題名が付いている。

ブルクミュラー 18の練習曲

初中級者ツェルニー 30番程度。

全て2ページとなっている。

一曲一曲に題名が付いている。

ちなみに、日本で出版されているブルクミュラーの練習曲は他に12の練習曲がある。

ブルクミュラー 12の練習曲

中級者ツェルニー 40番程度。

二ページから四ページとかなり長くなっている。

題名無し。

調性

図の様に同じ調で作曲されていて差はなく、黒鍵を多く使う調や弾きにくくなる調号の多い短調がなく弾きやすくなっている。

ブルクミュラー18の練習曲の13. 雷雨は二短調で始まり二長調で終わっている。

	ブルグミュラー 25の練習曲	ブルグミュラー 18の練習曲
ハ長調	1. 正直 4. 子供たちのつどい 6. 前進 9. 狩 11. せきれい 13. なぐさめ 25. 令嬢の乗馬	1. ないしょ話 2. 真珠 6. 陽気な少女 10. すばやい動き
イ短調	2. アラベスク 12. 別れ	11. セレナード
ト長調	3. 牧歌 7. きれいな流れ 14. ステイリアンヌ 21. 天使の歌 24. つばめ	3. 家路をたどる羊飼い 5. 泉
ホ短調	18. 不安	8. アジタート
ヘ長調	5. 無邪気 8. 優美 17. おしゃべり	7. こもり歌 12. 森での目覚め 17. 行進曲
ニ短調	20. タランテラ	13. 雷雨
ニ長調	10. やさしい花	18. つむぎ歌
ト短調	16. あまいなげき	15. 空気の精
イ長調	19. アヴェ・マリア	14. ゴンドラ漕ぎの歌
変ホ長調	23. 家路	16. 別離
ハ短調	15. バラード	4. ボヘミアン
変イ長調	22. 舟歌	9. 朝の祈りの鐘

※題名は音楽之友社「ブルグミュラー 25のやさしい練習曲」

「ブルグミュラー 18の練習曲」より

転調

転調に於いては、調号の変わらぬ平行調や同主調を多く用いている。ブルグミュラー 18の練習曲 になると、調号を用いた転調や調号を示さない転調も多く見られる。又、一曲の中で何度も転調する曲（4. ボヘミアン）もあり、その度音の響きの違いを感じながら弾かなければならない。

同じ目的の練習曲のテクニックや音楽表現の難易度の差

音階

音階はピアノを弾く上で基本中の基本の練習であり、音の粒を揃えるには絶対練習しなければならない。ブルグミュラー 25の練習曲、18の練習曲共に、ほとんど一オクターブ内の動きで収まっている事が多い。

ブルグミュラー25の練習曲6. 前進

ブルグミュラー 18の練習曲2. 真珠

この曲は2オクターブのように見えるが、指使いは1オクターブの繰り返しである。しかし、上行は5から1へ、下行は1から5に同じ音で指を弾き直す様になっている。同じ鍵盤上で素早く指を交換し、流れを止めない様にするのはやり難い。それを曲を通して行うのは大変である。

重音の連続

重音は脱力しないと弾きにくいので、初心者にとっては難しいテクニックの一つである。

又、同じ度数の連続かいなか、白鍵のみか黒鍵が入るか等によって難易度が違ってくる。

ブルクミュラー25の練習曲4. 子供たちのつどい

この様に3度や6度の連続で幅が決まっている重音は、同じ幅で指を動かすため比較的易しい。

ブルクミュラー18の練習曲6. 陽気な少女

同じ指使いで度数が変化し、指の広がりが変わる。指の独立性が求められる難易度が増す。

オクターブの動き

オクターブ、それ以上離れている音を弾くには、手を広げているときに力が溜まらないようにしなければならない。

ブルグミュラー25の練習曲 9. 狩

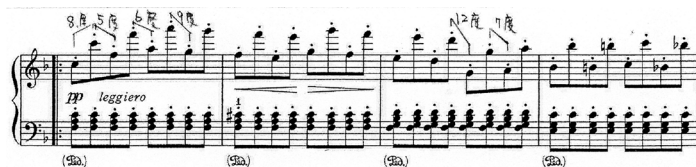
オクターブも同じ幅で動くのは比較的弾き易い。オクターブ下がって又同じ音に戻っている。

オクターブ飛ぶのもワンクッション入り指の準備が出来る。



ブルグミュラー18の練習曲12. 森での目覚め

オクターブを弾き、次に度数が狭まったり、広がったりしてから、再びオクターブ弾きくのは幅の感覚が違って弾き難くなる。



交互

左右を交互に弾く時は、左右のバトンタッチ時にバランスが崩れない様に気を付けることが一番である。

ブルグミュラー25の練習曲24. つばめ

左右が交互に弾く曲もメロディーラインが拍の頭にあると弾き易い。



ブルグミュラー18の練習曲 8. アジタート

左右交互に同じリズムを繰り返し弾くのは、力を抜くことが難しくなり、音のバランス、リズム、テンポが崩れがちになる。まして、速いテンポで正確に弾くのは非常に難しくなる。

(速く活発に)
Allegro vivace ♩ = 126 ~ (176)
 8. *p* *mf* *f*

装飾音

装飾音は軽く弾かなければいけないが、速く弾こうと力が入ってしまい逆に重くなってしまうことがあるので注意が必要になる。又、装飾音は旋律ではなく、あくまでも「飾る音」なので、装飾音の次にくる旋律を邪魔しない様に弾く事が大切である。

ブルグミュラー25の練習曲では右手の単発で出でくるため、力を抜いて弾く事が比較的楽である。しかし、ブルグミュラー18の練習曲11. セレナードの様に曲を通して左右でアルペジオとして出てくると、左右のタイミングや音量のバランス、又装飾音の軽快さを揃えないと音楽がバラバラになってしまい、流れを止めないように弾くのが難しくなる。

(やや速く、やさしさをもって)
Allegretto grazioso ♩ = 144 ~ (176)
 11. *p* *Il canto marcato* *f*

メロディーを押さえながら和声音を入れる

メロディーを弾いている指が最後までを離れないようにしながら、他の和音を弾く事は力の配分が難しくなる。

ブルグミュラー25の練習曲7. きれいな流れ

重たい1の指だけでメロディーを弾くのは残りの2～5の指の脱力が少し楽である。

Allegro vivace ♩ = 176

7. *pp mormorando* *cresc.*

ブルグミュラー18の練習曲1. ないしょ話

メロディーを5や4の指でレガートで弾きながら521・421と下降させていくのは、一の指に向かって重さが加わりがちになり易く、メロディーを弾く指が浮きやすくなる。そのため、切れないようにメロディーを弾くのが難しくなる。

(あまり速くなく)
Allegro non troppo ♩ = 100~(152)

1. *p dolce* *cresc.*

ブルグミュラー18の練習曲5. 泉

メロディーの内声に置いた重心が浮かない様にながら、手を広げる1と5の指に力が溜まらない様に軽く弾くにはかなり難しくなる。

(歩くような速さで、やさしさをもって)

Andante grazioso ♩ = 100~(120)

5. *(pp) dolce legato*

(Una corda)

ブルグミュラー18の練習曲の9. 朝の祈りの鐘

メロディーをレガートで弾きながら和音を弾き直さなければいけない。和音を弾いている指が上がった時に、メロディーを弾く指が切れない様にするには、メロディーを弾く指と和音を弾く指の重心のバランスが難しくなってくる。

(音を保って、歩くような速さで)

Andante sostenuto ♩ = 72~(84)

9. *p* *espress.*

フレーズのもって行き方

ブルグミュラー 25の練習曲では、多くの曲が次のフレーズに入る時に休符を用いている。その休符により一度力を抜き、新たなフレーズに向けてのブレスで弾き出す事が出来る。それに対し、ブルグミュラー 18の練習曲になると多くの曲で音楽の流れを止めずに入っている。休符によるブレスがなく次のフレーズに入るには、*cresc.* や *dim.* による強弱の流れと *rit.* (時には *accel.*) による一つ一つの音の幅をコントロールしなければならずより難しさが増す。

ペダルの使い方

ブルグミュラー18の練習曲では、音を伸ばすペダルの他に、Una corda (弱音ペダルを使用して)の表示されている曲がある。(2. 真珠、5. 泉。)この指示によって、より音の響きを大切に弾かなければいけない。

おわりに

以上述べて来た様に、ブルグミュラー18の練習曲になると、テクニックの要求度が高くなり、音楽を作る上で重要な表現力も幅広く求めている。ツェルニーの練習曲とは違った意味で音楽の流れを考え、感じ、一つ一つの音を大切に弾かなければいけない。その様に楽譜を読み、弾く事を習得することによって、感性がより磨かれピアノを弾く喜びが増していくであろう。

レッスン時間が限られている中で多くの曲を勉強するのは大変である。ブルクミュラ25の練習曲を終了した人がソナチネに移るのは、ソナタを弾く上での形式やテクニックを身に付けるには必要で必ず弾くべきであるが、ツェルニー30番程度の中で音楽的な表現も身に付けるには、ブルグミュラー 18の練習曲は最適な曲集である。、曲想もロマン的になっていて、後に弾くショパンやシューマン等のロマン派の導入になるであろう。ゆえに、ソナチネだけではなく、ブルクミュラー 18の練習曲も、もっと併用されるべきである。

又、ブルクミュラーの18練習曲は、一曲一曲が変化に富み興味を持って勉強出来る曲集であり、ツェルニー 30番やソナチネの途中で辞めてしまったピアノ学習者が、再びピアノを弾き始めるにも、曲の長さや譜読みの点で最適な曲集ではなかろうか。

参考資料

ブルクミュラー25のやさしい練習曲 音楽之友社

ブルクミュラー25の練習曲 全音楽譜出版社

ブルクミュラー18の練習曲 音楽之友社

ブルクミュラー18の練習曲 全音楽譜出版社

ツェルニー30番 音楽之友社